

近藤じゅん子通信 vol.18



近藤じゅん子が一人親家庭の自立支援を強力にサポート！

**新型コロナウイルス感染症対策へさらに提案！
虐待やいじめで苦しむ子どもを守る施策も！**

第3回定例会・区議会公明党の代表質問より

令和3年9月14日(趣意)



新型コロナウイルス対策

感染症対策アドバイザー導入について

質問 家庭内感染が増える中、学校での、クラスターを予防するため、より安全・安心な予防策が必要だと考えます。

そこで学校施設等に専門性の高い感染症対策アドバイザーを派遣することを提案します。

答弁 (区長) 専門医が勤務している医療機関は区内に複数あり、相談内容に応じて、専門家の派遣調整を行ってまいります。

緊急生活支援について

質問 独居、家庭内感染世帯の希望者に応じ、食料品や日用品を宅配(置き配)する支援と、パルスオキシメーターの貸し出しも併せ

て実施することを提案します。

答弁 (区長) 今後も希望される方へ、置き配を速やかに手配して行きます。

パルスオキシメーターにつきましても、希望される方に全数送付いたします。

妊婦のワクチン接種について

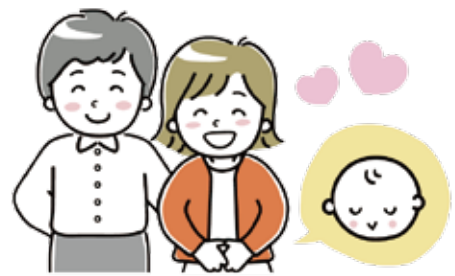
質問 妊婦・パートナー等の同居家族が、早期に新型コロナウイルスワクチン接種を受けることが出来る様に積極的な周知が大切です。

具体的には、接種日当日に、上のお子さんを子育て支援センターで一時預かり出来ること等、接種しやすいサービスの情報も渋谷区子育てネウボラや、LINEなどを活用して効果的に発信することを提案します。

答弁 (区長) 渋谷区子育てネウボラでは、妊婦の方へ、面接の際にワクチン接種の説明をします。

妊婦及び未就学児のいる保護者へLINEを通じて、ワクチン接種の奨励など、

引き続き、区ホームページや区ニュースを始め、多様な媒体により、周知を図ってまいります。



子育てネウボラ

発達支援の体制について

質問 発達等に心配のある児童について、教員や学校が、医師等の専門家に相談ができる体制を作るべきと考えます。

児童精神科医等の専門家に講師を依頼し、「発達支援について」教員向けのオンライン研修会を実施することを提案します。

また、今後、月に1度でも、児童精神科医等に直接相談ができる体制を構築することを重ねて提案します。

併せて、スクールソーシャルワーカーが、より専門性を発揮し、幅広い相談支援に応じていく事で、一層手厚い体制ができると思います。

答弁 (教育長) オンラインの方法も視野に入れながら、専門家を招

いた研修を計画してまいります。

教員が医師等に相談できる体制につきましても、他の自治体での取組状況なども踏まえ、検討してまいります。

また、スクールソーシャルワーカーが専門性を発揮して関係機関につないで幅広い相談に対応するよう体制を充実してまいります。

子どもの相談先について

質問 虐待やヤングケアラー(※ヤングケアラーとは↓家族の介護や、身の回りの世話を担う18歳未満の子どものこと)などの家庭内の事や、学校などでの人間関係、いじめに関して、誰にも相談できない辛さ、孤独を抱えた子どものために、何でも相談できるホットラインの情報、相談先のアドレスや電話番号を、児童・生徒用のタブレットに掲載することを提案します。

答弁 (教育長) 児童・生徒用タブレット端末に相談先を掲載することにつきましては、具体的な方法を早急に検討してまいります。



ヤングケアラー支援について

質問 第2回定例会のわが会派の代表質問で、支援を必要とする「ヤングケアラー」への対応について、「児童生徒や教職員を対象に啓発とともに、児童・生徒の学

ぶ権利が保障されるよう、関係機関と連携した取組を進めて参ります」との答弁を頂きました。

「渋谷区子育てネウボラチーム」での取り組みや公表できるケースがあれば教えてください。

答弁（区長）8月に教育センターが渋谷区子育てネウボラに移転し、スクールソーシャルワーカーと子ども家庭相談員が、相互に情報共有会議に出席するなど、連携を強化しています。



関係所管の連携会議について

質問 家庭内の課題には、DV・ダブルケア・高齢者・障がい者の介護、引きこもり、生活困窮、医療支援等々。保護者や家族の自覚がない分野にも支援が必要なケースもあります。

複合的な課題や狭間のニーズに対応するために、ネウボラチームにプラス、福祉部や健康推進部等の関連する担当所管も参加をするなど、それぞれの知見とネットワークを駆使して、子どもや家庭が抱える厳しい現状を、速やかに改善するために、重層的な支援の輪を広げることが必要だと考えます。

今後、合同ケース会議等には、必要に応じて福祉部・健康推進部等の関係所管も同席するなどにより、連携を密にすることを提案します。

答弁（区長）合同ケース会議において、子ども家庭部、福祉部、健康推進部、教育委員会、東京都児童相談センターから実務者が参加して情報共有を行っており、ヤングケアラーについても、その支援策を多角的に検討しています。



SOSを出しやすい仕組みについて

質問 ヤングケアラー支援の先進地イギリスでの事例が参考になります。

全校生徒の前で、支援団体が寸劇で表現。

ヤングケアラー役が、宿題をや

りますという教科書を持つ、次にお掃除もしますと掃除機を持って、お料理もしますとフライパンを持って、次々、普段していることを挙げていくと、全部持たないので落としていく。

そして、「こういう状態にある人はいませんか」と問いかけます。

「自分はそういう状態かもしれない」と気づいた子どもは、お友達に知られないで、学校内のポストにその旨を投函でき、それを読んだ先生と話ができるようになっているそうです。

子どもが追い詰められる前に、支援ができるよう、学校等で本人に気づきをもたらしワークシヨップや、SOSを出しやすい仕組みづくりを提案します。

答弁（区長）「SOSの出し方に関する教育」を推進し、気になる児童生徒へ丁寧に声掛けを行うことで、ヤングケアラーの早期発見に努めてまいります。

防災

長期停電対策について

質問 停電時でも点灯する防災・減災対応照明灯を避難所・学校前、一時集合場所・公園前に目印的に配備することや、防災倉庫周

辺や公園トイレなどに、効果的に配備することを提案します。

答弁（区長 議員）提案の停電時

でも点灯する照明灯を一時集合場所や公園等に設置することについては、設置及び維持にかかるコストや効果も含めて、今後の検討課題とさせて頂きます。

避難支援プランについて

質問 大規模災害が発生すると自治体も自治体職員も被災します。自治体、警察、消防の、救援・救助活動が出来なくなること災害と言います。

公助を待つ受け身の防災・避難対策では救える命も救えません。発災後の公助は、早くて72時間

後だと腹を決めて取り組まなければなりません。公助が入るまで、自助と共助で、正に地域で助け合わなければならないのです。

「避難支援プラン」作成の目的は、プラン作成作業を通して、地域で助け合う防災減災を根付かせていくことだと思えます。

まず、要支援者本人が家族及び関係者とともに実情を把握し、課題を洗い出し、リスクを認識することが必要です。その上で、見えてきた課題について自助・共助・公助の順番で避難支援策を整理します。

併せて要支援者の課題から地域の防災・共助の課題も可視化されていきます。

これらのプロセスを踏んで、避難支援プランを作成することを提案します。

併せて要支援者の課題から地

域の防災・共助の課題も可視化されていきます。

これらのプロセスを踏んで、要支援プランを作成することを提案します。

また、避難行動要支援者名簿のデジタル化・デジタルトランスフォーメーションの導入を提案します。

（区長）必要な項目の拡充など、様式の改良を検討してまいります。

今後、地域の防災訓練などを通じて、様式の適否を検証し、必要な修正を継続してまいります。

名簿のデジタル化は、現在の防災システムとの連動や今後の広域的デジタル化の動向などを見据えつつ、継続して研究してまいります。



避難ツールの活用等について

質問 自助を具体化するフォー

マット等は、障がい者、高齢者が共通で活用できるツールとして、国立障害者リハビリテーションセンター研究所が制作した「自分でつくる安心防災帳」や「マイ避難カード」等があります。

これらを活用することで、要支援者本人・家族の防災対策・避難

計画の明確化、そして支援者側の役割も明確になります。

これらも踏まえ、「避難支援プラン」の項目については、継続的な検証・修正を提案します。

また、名簿更新時に関係者が一堂に会する自主防災組織、民生児童委員、安心見守りサポート協力員、地域包括支援センター職員を対象に机上 避難行動訓練を実施することを提案します。

例えば、私が令和2年第4回定例会で提案した、地域防災を考える防災教育教材、「避難机上訓練E V A G」は、多様な要支援者の支援を考えるものですので、活用できると思います。

答弁（区長）「避難支援プラン」は、公助の場面でも「避難支援プラン」は重要な情報源となりますので、必要な項目の拡充など、様式の改良を検討してまいります。「避難支援プラン」は、今後、地域の防災訓練などを通じて、様式の適否を検証し、必要な修正を継続してまいります。

また、議員よりご紹介の、「自分で作る安心防災帳」や「マイ避難カード」、「避難机上訓練・イーバッグ」などの各種ツールは、誰もがわかりやすい工夫が凝らされており、防災への備えや意識の向上などの効果が期待できるものです。

今後の「避難支援プラン」のブラッシュアップに向けて、活用之道を探ってまいります。



自分でつくる安心防災帳

デジタル活用

町会等のデジタルデバйд解消について

質問 発災時に支援者側の情報共有は、最重要課題と言えます。

その解決策の一つは、自主防災組織・町会のデジタルデバйдを解消することだと考えます。

さらにウィズコロナも踏まえますと、町会活動全体のデジタルデバйдを解消するための事業を庁内一丸となって推進するところが急務だと考えます。

町会のデジタルデバйд解消を地域振興課の「町会その他の地域共同体活動助成」を活用し、全ての町会にタブレット等のデジタル機器を配備、併せて生涯活躍推進課のデジタル活用支援員制度の活用で、デジタル活用勉強会・相談会を実施し、両輪で推進していくことを提案します。

答弁（区長）議員ご提案の「町会その他の地域共同体活動助成補助金」を活用したタブレットなどのデジタル機器の配備については、さらに、出張所など地域の拠点となる身近な施設も活用して、職員がご案内するなど、多くの町会で、活用していただけるように検討してまいります。

また、希望する町会には、議員ご提案の通り、デジタル活用支援員を活用した勉強会や相談会が実施できるよう検討を進め、ハード面とソフト面の両面で支援してまいります。



スマホ相談会について

質問 デジタルデバйд解消事業は、今月からスマホの貸与と4回／1クールの講習会も開始されました。

2年間の実証期間に、参加者の方々が、多様なアプリケーションを活用してデジタルの恩恵を受け、新たな生きがいに繋がりが、参加して良かったと実感して頂くことが当事業の成功だと考えます。

2年後にも同様の事業が必要になることも視野に入れて取り組むことを提案します。

また、デジタル活用支援員は、より地域密着型の方向性を持つて活動することを期待しています。

例えば希望に応じて、訪問型、シニアクラブや町会の他、小単位の集いでの出張型、区施設等に気軽に立ち寄れる予約なしのスマホ相談会を実施することを提案します。

答弁（区長）実証事業で収集したデータを活用した検証を行い、新規事業の検討や既存事業の改善につなげてまいります。

デジタル活用支援員につきましては、フォローアップ体制を整えながら、活躍の場を拡充して行く予定です。

訪問・出張型のサポートや、区施設での予約なしの相談会の実施については、ニーズに応じて段階的な実施を検討し、地域の力を活用した持続可能なサポート体制を構築してまいります。



福祉

ひとり親支援の連携の強化について

質問 離婚の当事者は、離婚届については、住民戸籍課の窓口にて、そして、ひとり親となることに伴う相談・支援については、子ども青少年課の児童扶養手当、ひとり親家庭等への医療費助成、家事援助者の派遣、児童育成手当などがあります。

また、生活福祉課では、母子支援プログラム、母子生活支援施設などの当事者にとっては欠かせない制度が整っています。

しかし、ひとり親に対する支援は、所管ごとに多様なサービスが用意されるも、必要な制度にたどり着くこと自体に課題があるように感じます。

そこで、離婚を考える親が知っておくべき事項を一元的に提供し、切れ目なく包括的に支援が出来る様に関係所管での連携が大切であると考えます。

住民戸籍課の窓口は、離婚届用紙の配布と離婚届の受理を行っているのですが、離婚時点では全員が遇する行政サービスの入口と言えます。

現在、住民戸籍課では、私の提案で、裁判外紛争解決で仲裁・仲介を行うADRセンターを紹介するリーフレットを離婚届と一緒に配布していますが、子どもの

健やかな成長のために必要な、養育費や面会交流についての引きや、ひとり親に関連する行政等の支援制度・窓口一覧表等を配布し、能動的に相談支援等へ誘導することを提案します。

法務省が作成した、養育費や面会交流についての引き等とのリンクURLをホームページに掲載することも併せて提案します。

答弁（区長）離婚に至るには様々な理由があり、個人情報に配慮しながら、必要な支援に円滑に結び付けられるよう、今後も検討を重ねてまいります。

また、法務省が作成したパンフレットは、区のホームページへリンク先を掲載し、ご案内するよういたします。



母子・父子自立支援について

質問 母子・父子支援プログラムは、短期目標だけではなく、子どもの成長・進学等を含めた将来を見据え、中長期的な目標も描きながらのプログラムへと深化をさせていくことが重要だと感じます。母子・父子支援プログラムを深化をさせていくことを提案します。

「スタートアップ支援事業」の中で、シングルマザーの働きや

すい環境づくりを進めている企業が、デジタル人材不足を課題としており、デジタルスキルの習得から就労までを支援するプログラムを検討していると側面しています。

こういった一連の情報も多忙なシングルマザーの方にタイムリーにリーに届く発信方法も工夫して頂きたいと考えます。

（区長）デジタル分野への就労サポートについては、安定した就労につけるかどうか判断しながら、支援を進めてまいります。支援を必要としている方にタイムリーに情報が届くよう、連携

公園整備

多世代インクルーシブ公園について

質問 大人も子どもも多世代の人が楽しめ、運動ができる公園の設置の検討提案します。

大人向け運動遊具の設置の検討を提案します。

大人向け運動遊具の設置により、生活習慣病予防や、高齢者のフレイル予防の一助にもなりえると考えます。

答弁（区長）現在、8公園に大人

して取り組んでまいります。

の方も使っていたいただける17基の健康遊具が設置されています。多世代の人が楽しめ、運動ができる公園や高齢者のフレイル予防の一助となる遊具を整備する案につきましては、一つのアイデアとさせていただきます、区民の皆様とともに魅力的な公園を作り育ててまいります。



渋谷区子育てネウボラがオープン！

渋谷区議会公明党の提案が実現！
妊娠期から18歳まで、切れ目のないサポート！



妊娠期から18歳になるまでのすべての子どもと、その家族へ、区が切れ目のないサポートを行う仕組み「渋谷区子育てネウボラ」。その中心拠点となる施設が8月2日にオープンしました。地域一丸となって子どもを育てることをコンセプトに、部署をまたぎ、多種多様な相談に対応する、全国でも活気的な施設です。渋谷区子育てネウボラは、区議会公明党が2015年から発案し、19年度にスタートしました。中心拠点の開設で、より本格的な取り組みの展開が期待されます。



渋谷区子育てネウボラ
公式サイト

ひとり一人を大切に、皆様の声を区政に活かします。

—— 区政に対するご要望、お困りごと、お気軽にご相談ください ——

渋谷区議会議員 近藤じゅん子

●区民環境委員会

●多様性社会推進特別委員会委員長

渋谷区議会公明党控室
TEL. 03-3463-1036 FAX. 03-5458-4962
携帯 090-2221-7507
近藤じゅん子のブログ
<http://ameblo.jp/kondo-junkon>



ホームページ



アメブロ



Twitter



Facebook